

《担当者名》 橋本竜作 小林健史

【概要】

言語発達障害学 で学んだ、特異的言語発達障害、学習障害、注意欠如/多動性障害、脳性麻痺、自閉症スペクトラム障害などの言語発達を阻害する要因と言語発達段階を踏まえた、言語・コミュニケーションの支援法について知見を深める。

【学修目標】

1. 言語発達段階に即した支援法について理解する。
2. 語用論的アプローチ、TEACCH、PECS、AACの基本について理解する。
3. 報告書の基本的な書き方について理解する。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1 }	ガイダンス	科目の概要、学習目標、講義日程、学習内容、評価方法について理解する。	小林健史
3	言語発達段階に即した支援	前言語期、語彙獲得期、幼児期、学童期の具体的な支援の方法について学ぶ。	
4	地域支援	地域における言語聴覚士（専門家）の役割、保護者への支援、地域連携について学ぶ。	小林健史
5 }	自閉症スペクトラム障害の支援	語用論的アプローチ、TEACCH、PECSについて学ぶ。	小林健史
6			
7 }	脳性麻痺の支援	AAC、小児の摂食機能療法の基本について学ぶ。	小林健史
8			
9 }	注意欠如/多動性障害の支援	神経心理学的背景と支援について学ぶ。	橋本竜作
10			
11 }	限局性学習障害の支援	読み書き障害の背景と支援について学ぶ。	橋本竜作
12			
13	報告書の書き方	乳幼児期の報告書の書き方について学ぶ。	小林健史
14	報告書の書き方	学童期の報告書の書き方について学ぶ。	橋本竜作
15	まとめ	まとめのテストを通じて知識の確認を行う。	小林健史 橋本竜作

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

定期試験80% 小テスト20%

【教科書】

玉井ふみ 他 編 「標準言語聴覚障害学 言語発達障害 第2版」 医学書院 2015年

【参考書】

石田宏代 他 編 「言語聴覚士のための言語発達障害学 第2版」 医歯薬出版株式会社 2016年
 大伴潔 他 編 「言語・コミュニケーション発達の理解と支援」 学苑社 2019年
 大伴潔 他 編 「学齢期の言語発達支援」 学苑社 2018年

【備考】

適宜、資料を配付する。この科目は、2020年度まで第3学年前期に開講されていた言語発達障害学特論（旧カリキュラム）の新カリキュラムに該当する科目である。

教科書は第3版が発売される予定で、現在の表記は第2版となっている。

【学修の準備】

- ・予習として、講義内容を確認し言語発達学、言語発達障害学 の資料および教科書を復習し、重要な内容を覚えて講義に臨むこと。（80分）
- ・復習として、言語発達障害学演習で学んだ評価法と関連づけて解釈を深めるよう学習すること。（80分）

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）言語聴覚士として必要な科学的知識や技術を備え、心身に障害を有する人、障害の発生が予測される人、さらにはそれらの人々が営む生活に対して、地域包括ケアの視点から適切に対処できる実践的能力を身につけている。

【実務経験】

小林健史（言語聴覚士）、橋本竜作（公認心理師、臨床発達心理士）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関、療育機関での臨床経験を活かし、言語発達障害児の指導法について講義する。